

アーチェリーの魅力

パラリンピックの起源

パラリンピックの起源は、1948年にイギリスのストーク・マンデビル病院のロードウィッチ・グッドマンという人が、第二次世界大戦で障害を負った人々のために、ロンドンオリンピックの開会式の日にはいらしたストーク・マンデビル競技大会です。

アーチェリーはこの大会の中心競技であり、リハビリとして最初に取り入れられたスポーツでもあります。



リハビリスポーツとして



アーチェリーは弓に矢をつがえてはなすだけのやさしいスポーツで、運動者の体力に適した弓具をしようすることにより、性別・年齢に関係なくいつからでも始められ、いつまでも続けられる生涯スポーツとしても最適なスポーツです。また、せきずい損傷などの麻痺したからだではなかなか鍛えることのできない体幹（腹筋・背筋などの体を安定させる筋力）を楽しみながら無理なく鍛えることができます。

ハンディキャップ無く対等に

アーチェリーの最大の魅力として、身体に障害がある人と障害のない人とが、ハンディキャップ無く対等に競技できる数少ないスポーツである。ということです（矢取りや看的は同的の競技者をお願いしなければいけません）。長野県アーチェリー協会主催の競技会にも全国から障害のある方が参加しています。全く同じ土俵の上で楽しみ、競い合い、お互いのレベルアップのために情報交換をしながら楽しんでいきます。



上田市アーチェリー場は、長野県全体のアーチャーが集まってくる射場です。講習会当日に来られない方でも事前に連絡さえいただければ、その日にアーチェリーの実射体験もできます。

お気軽に連絡下さい。（多目的トイレ・駐車場完備）

連絡先 電話0268-39-3655